

救急処置演習 A-Ⅲ		演習	准教授 古川 慎太郎 講師 清家 洋
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野	科目ナンバリング	13391301

1. 授業のねらい・概要

救急救命士として傷病者の観察・処置などの基本を理解し、刻一刻と変化する病態に対し、確実な救命が実践できることを目的とする。また病院前における医療資器材を用いた救急救命処置等の理論及び、具体的な救命処置技術について演習を通して理解する。A-I，A-II の内容を前提により高度な知識と手技を学んでいく。

2. 授業の進め方

救急救命処置に関する知識と技術を確実に修得させるために、シミュレーション型実技訓練に重点を置いて演習を展開する。また、座学を並行して行い、演習に必要な知識の修得を図る。

3. 授業計画

1. オリエンテーション 心肺停止活動要領、心原性心停止傷病者に対する隊活動について理解を深める。 2. 酸素投与 酸素投与について理解を深める。 3. 救急隊活動 救急隊活動中における声門上気道デバイス（LM）を用いた気道確保を習得する。 4. 救急隊活動 救急隊活動中における声門上気道デバイス（LT）を用いた気道確保を習得する。 5. 気道の解剖と喉頭展開 気管挿管に必要な知識の理解を深め、喉頭展開を習得する。 6. 器具を用いた異物除去と喉頭展開 喉頭鏡・マギール用いた異物除去・喉頭展開について習得する。 7. 救急隊活動 気管挿管プロトコルについての理解を深める。 8. 気管挿管 気管挿管の方法と手順について習得する。 9. 気管挿管と隊活動 トラブルシューティングについて理解する。 10. 気管挿管 カプノメーターについての理解を深める。 11. 気管挿管 手技の訓練 12. 気管挿管 手技の訓練 13. スキルチェック 気管挿管に関するスキルチェックを行う。 14. スキルチェック 気管挿管に関するスキルチェックを行う。	15. 中間試験 16. スキルチェック再試験 17. 気管挿管 エアウェイスコープについて理解する。 18. 気管挿管 エアウェイスコープの手順を修得する。 19. 心肺停止傷病者に対する静脈路確保 静脈路確保に必要な知識について理解を深める。 20. 静脈路確保 静脈路確保の手順と方法 21. 静脈路確保 静脈路確保プロトコルを理解し、習得する。 22. 静脈路確保 静脈路確保プロトコルを理解し、習得する。 23. 静脈路確保 静脈路確保の一連の流れを習得する。 24. 静脈路確保 静脈路確保の一連の流れを習得する。 25. 静脈路確保 手技の訓練 26. 静脈路確保 手技の訓練 27. 静脈路確保 手技の訓練 28. 静脈路確保 手技の訓練 29. スキルチェック 静脈路確保に関するスキルチェックを行う。 30. スキルチェック 静脈路確保に関するスキルチェックを行う。
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート、小テストの見直し、ノート整理）を適宜提示する。これには週3時間以上を要する。実技については、次の授業までに訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 小テスト

誤った問題についてはレポートにまとめ、次の授業時に提出しフィードバックを行う。

2) 課題

- a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
- b) 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 救急救命士として必要な知識と技術を確実に修得する。
- 2) 救急救命士として正確な観察、病態評価、資器材を用いた特定行為を修得する。
- 3) 救急資器材の準備及び扱う際に、清潔操作を確実に実施できる。
- 4) 特定行為の実施に必要な連絡、報告が実施できる。

7. 成績評価の方法・基準

成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力、技術の獲得ができたかを以下の方法で評価する。

1) 成績評価項目

- a) 事前の授業の準備と理解の評価
- b) 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
- c) 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
- d) 講義内容の理解度を試験で検討

2) 成績評価の方法

- a) 授業内容の整理・提出（20%）
 - イ) 事前の授業の準備と理解
 - ロ) 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢
- b) 実技試験
 - イ) 受験資格として80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 可否を判定する。不合格のまま単位が出されることはない。
 - ハ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し（但し追試験料は不要）、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ニ) 再試験は必要に応じて1回のみ実施する（但し再試験料は不要）。
- c) 筆記試験（80%）
 - イ) 受験資格として80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 中間試験は必要に応じて実施する。
 - ハ) 中間試験・期末試験結果それぞれの点数の60%以上を合格とする。
 - ニ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ホ) 再試験は、中間試験・期末試験それぞれ必要に応じて1回のみ実施し、60%以上を合格とする。
 - ヘ) 再試験の手続きについては履修要項を参照。

8. テキスト・参考文献

改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）

改訂6版 救急蘇生法の指針2020 市民用・解説編（へるす出版）

適宜指定するテキスト

9. 受講上の留意事項

- 1) 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 2) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀、倫理感を養う。
- 3) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。
 - a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服、黒色または紺色の T シャツ、黒色または紺色の靴下、汚れていない内履、及び名札の着用）が履行できない場合。
 - b) 長い爪、髭、過度に明るく染色した頭髮、アクセサリーの着用等、社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で、相応しくないと認められる場合。
 - c) 使用するテキストや資料、個人資器材（腕時計、聴診器、ペンライト、ゴーグル）、その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
 - d) スマートフォンなど音の出る電子機器については、電源を切ることを原則とし、これに従わない場合。
 - e) 居眠りや落ち着きのない言動等、授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
 - f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻、及び 30 分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。